

教育に思う

過去を知らざる者は将来を知らざると言う諺にも有る様に、学校の歴史を調べ此の様な記念誌を発刊する事は誠に有意義な事だと思ひます。ここに明治百年を想う時、維新の新政府は国民に文盲をなくす為教育を義務付ける事が近代国家を建設し、国家民族の将来を決するもので有るとし、政府樹立後僅か数年にして近代的学制を実施した事は誠に偉業であり敬服致します。而し教育は非常に難しいと思ひます。なぜならば、教育は人に有ると思ひます。半世紀以上に亘る終戦迄の教育を思う時に、思想と政治が介入したと思ひます。それ故に立身出世主義に陥り戦争にも拍車をかけたとも思ひます。而し敗戦後あの焼野が原より今日の経済大国に成ったのも戦前の教育を受けた人であるが国民の教育が基礎的に均一化され文盲のなかつた事だと思ひます。いづれにしても教育は国家民族の将来を決する最大の要因と思ひます。今までの歴史を偲び今後を想うに付け、教育者も社会人も教育を政治と思想の具に供してはならない。又有る様な面もあり戦前の反動を起さねばと心配も致す様な訳です。

尚、教育を大別すれば知育、徳育、体育とわかれるのではないかと思ひます。其の内知育と体育は学校だけで事がたりるのではないかと思ひますが、徳育はひとり先生のみでは成果が上りません。身近な人々に依つて左右されます。お互いに人

格ある日々を送る事が健全な考えを持つ子供に成ると思ひます。将来を背負う良い子供を持ってこそ家を初め、国家社会の将来を期待出来ると思ひます。私も現在の立場上本誌に寄稿させて頂いた訳です。洵に僭越な事を書きました。浅学故思う事も文にならず乱文にてお許しを。

(高豊教育後援会長 伴哲夫)